

2023 年度(令和 5 年度)

学校関係者評価報告書

**学校法人 東北外語学園
東北外語観光専門学校**

2023年度（令和5年度） 学校関係者評価報告書

学校法人東北外語学園 東北外語観光専門学校では、「自己評価報告書」の結果について学校関係者評価委員会を実施いたしました。内容について以下の通りご報告いたします。各委員から頂いた貴重なご意見、ご提言等を今後の教育活動、学校運営に反映させるべく、教職員一同努力してまいります。

1. 対象期間：2023年（令和5年）4月1日～2024年（令和6年）3月31日

2. 実施日時：2024年（令和6年）5月31日（金） 18:30～20:00

3. 実施場所：東北外語観光専門学校

4. 学校関係者評価委員会

【学校関係者評価委員】

曾根 洋明 氏 公立大学法人 宮城大学
基盤教育群 教授
国際交流・留学生センター センター長

今野 英治 氏 東日本急行株式会社 社員

水上 奈央子 氏 有限会社八千代 社のホテル仙台 社員

日出山 隆司 氏 卒業生（同窓会幹事長）

【事務局】

橋本 二郎 東北外語観光専門学校 校長
国際交流センター センター長
佐藤 学 キャスウェルホテルアンドブライダル専門学校 校長
武田 祐子 専門学校 副校長
屋代 励子 専門学校事務室 室長リーダー

5. 学校関係者評価報告

(1) 教育理念・目標

・2025年度に専門学校が大きく生まれ変わる。新たな学校を検討するために委員会を開催し、理事長や管理職に加え職員も意見を述べるができる機会を設けた。そのことについて、職員の声を吸い上げる風通しの良い職場だとお褒めの言葉を頂いた。

(2) 学校運営

・円安と物価高の影響で、特に海外出張の宿泊費や食費は高額になっている。この点を考慮し、出張の際は職員に特別な措置をしてあげてほしいとご意見を頂いた。

・2024年度より年間休日が130日となったことについて、恵まれた環境であるとお褒めのお言葉を頂いた一方、就業時間の短縮に伴い業務量の調整が必要ではないかというご意見を頂いた。

(3) 教育活動

・特に意見、質問等はなし

(4) 学修成果

・退学理由について、教育内容と本人の希望のミスマッチ以外にもあるのではないかとご指摘があった。友人が多く、授業やイベント等の情報交換が充分できている学生は出席率が良く、その結果成績も良い傾向がある。学生同士の繋がりを築くきっかけとなるようなイベントを入学後早い段階で行うと効果的かもしれないとご意見を頂いた。

・卒業時の就職率だけでなく、就職後2年から3年後くらいの離職率も調査した上で、在校生に就職指導ができれば有益だと思つとご意見を頂いた。

(5) 学生支援

・SNSの普及による問題も増えていると思うので、時代に合ったサポートを学生にしてあげてほしいとお言葉を頂いた。

(6) 教育環境

・2024年度に海外研修を再開することについて質問があった。過去には1年生のみを対象としていたが、数年ぶりに海外研修を再会することと、より多くの学生に機会を提供するため、今回は1年生と2年生の両方を対象としている。研修先はオーストラリアを予定しているが、以前よりも研修期間を短縮し、ケアンズのみ滞在することで、費用を抑える工夫をしている。さらに、オプショ

ナルツアーの導入も検討しており、学生が自分の興味や予算に合わせて選択できるよう配慮している。また、今回は集合と解散を成田空港で行うという新たな試みを計画していることを説明した。

- ・学校名に「外語」を冠していることから、海外研修を希望する学生にできるだけ多くの選択肢を提供してあげてほしいというご意見を頂いた。

(7) 学生の受入れ募集

- ・新たな校名について、名前が長いのご意見があったが、高校生が学校を探す時に何を学べる専門学校か一目で分かるような校名にしたと回答した。

(8) 財務

- ・東北外語学園としては中長期的に見て財務基盤は安定している。2023年度は日本語科の留学生が増えたこと、また学園直営の米ヶ袋寮については、日本人学生と留学生共用の寮とすることによって入居率の向上に繋げることができたことをご説明した。

(9) 法令遵守

- ・特に意見、質問等はなし

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・荒町商店街と連携して七夕のイベントや小児病棟へメッセージを送る活動を行ったことについて、学生が社会と接する素晴らしい企画なので、ぜひ継続して頂きたいとお言葉を頂いた。

(11) 国際交流

- ・米ヶ袋寮に住んでいる日本人学生と留学生の間に交流する機会があれば、教育的な観点からも有益であるのご意見を頂いた。

- ・英語圏の国々の留学生が増えれば、校内でも英語を中心とした学生同士の異文化交流ができるのではないかとご意見を頂いた。

本校ではネパールなどネイティブではなくても英語を使える学生がいる。日本人学生と留学生の合同の授業や、スピーチ大会やスポーツ大会を通じて交流していると回答した。

- ・様々な国籍の学生を受け入れている専門学校もある。募集活動を工夫することで、多様性を更に促進できるのではないかとご意見を頂いた。